

非稼働病床の現況について (大阪市 二次医療圏・病院)

資料 2-4

※過去 1 年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去 1 年間病床が一度も稼働していない有床診療所（非稼働病床という）

【北部】

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になつた時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院	大阪市北区	42床	令和 1 年度	西館の取壊しと建替えに伴い、病棟を閉鎖して工事箇所の移転先を確保する必要があるため。	その他		病床の再開場所としては、病院内にある健診センターのスペースを利用する予定である。健診センターは西館へ移転する予定だが、西館は耐震基準を満たさない古い建物であり、利用に際しては取壊しと建替えが必要である。 現在、西館の建替えについてワーキンググループを立ち上げ、具体的な検討を重ねている段階である。病床については再稼働予定であり、西館完成予定時期と同じ2026年（令和8年）以降となる予定である。
2	大阪市立十三市民病院	大阪市淀川区	24床	令和 4 年度	コロナ専門病院の間、全病棟での一般患者の受入を休止した期間を経て、専門病院終了後についても、一般急性期の患者の回復が見込みづらい状況が続いていたことから、医療機能を一般急性期から緩和ケアに転換した。それに伴い、一部を患者控室にするなど、用途変更した病室がある。また緩和ケア担当医師が1名という状況もあり、専門医確保に難渋していることから、56床のうち32床での運用を行っている。	その他		現在、大阪市の中期目標、中期計画の期間中であり、令和10年度までの病床削減等は困難な状況であるが、令和11年度からはじまる次期中期計画を見据え、医療機能の転換を含めた病床数の見直し等も検討していく予定。

非稼働病床の現況について (大阪市 二次医療圏・病院)

※過去1年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去
1年間病床が一度も稼働していない有床診療所（非稼働病床という）

【西部】

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になつた時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪みどり中央病院	大阪市港区	46床	令和5年度	新型コロナの終息後、入院患者数の減少により休棟となり、職員数を削減したため。	病床の一部を削減し、再稼働する。	翌年度中	診療スペースの確保や感染症等の流行期の対応のために、一部病床を削減する等して残りの病床を稼働させる予定。
2	医療法人藤田会 フジタ病院	大阪市福島区	3床	平成28年度	施設基準（地域包括ケア病棟）における、1床あたりの広さの基準により許可病床数をすべて使用することができなかった為	再稼働する。	未定	病院の建て替え工事を検討しているが情勢を鑑みて着工時期については未定としている。
3	医療法人燐恵会首藤病院	大阪市福島区	16床	令和3年度	看護師及び看護補助の人員確保が困難な為、確保出来次第稼働可能である。	再稼働する。	翌年度中	求人はかけているが、紹介会社を通しての募集は求人費用が膨大な為、地道にハローワークやホームページや縁故を利用しての人員確保をしているので、劇的に人員確保できる状況ではない。公的機関による求人紹介など医療機関の求人費用の高騰対策を希望します。
4	大阪掖済会病院	大阪市西区	42床	令和6年度	大阪公立大学の関連病院となっているが、医師の派遣がいただけないため。	病床の一部を削減し、再稼働する。	今年度中	2025年9月30日付で許可病床を10床減少させています。現在32床は、休床していますが、今後、医師の確保ができた時点で、再稼働の予定です。

非稼働病床の現況について (大阪市 二次医療圏・病院)

※過去1年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去1年間病床が一度も稼働していない有床診療所（非稼働病床という）

【東部】

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になつた時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	独立行政法人国立病院 機構大阪医療センター	大阪市中央区	41床	平成27年度	新型コロナウイルス感染症の流行時の病棟として整備・活用した病棟であり、通常時に稼働させない病棟であるため。 施設基準の関係で届け出病床数に制限があるため。	病床の一部を削減し、再稼働する。	未定	病院更新築計画の立案中のため削減病床が未定であるため。削減病床数が確定次第削減する。
2	社会医療法人大阪国際 メディカル&サイエンスセンター 大阪警察病院	大阪市天王寺区	41床	令和6年度	2025年1月に新病院開設に伴い、各病棟の看護師の配置も含め、当該病棟の開始時期について検討を行っている。	再稼働する。	未定	医療従事者の確保の目途が立ち次第、病棟をオープンさせる予定である。
3	社会福祉法人四天王寺 福祉事業団四天王寺病院	大阪市天王寺区	47床	令和5年度	看護師不足に伴い職員の確保ができないことと、医師不足により経営上、収支状況が改善できていない。	病床の一部を削減し、再稼働する。	今年度中	介護医療院への転換は収支状況の改善が見込めないため断念した。 令和7年10月1日より大阪府の病床数適正化支援事業により7階急性期病床については50床の内の45床を、4階療養病床については47床の内2床を返還となった。
4	なにわ病院	大阪市浪速区	10床	令和6年度	地域包括ケア病棟を令和6年3月より新たに開設したことにより、医療従事者の安定的な確保と入院患者の獲得に時間を要したため。	再稼働する。	今年度中	すでに従事者の確保は済んでおり、安定的に病床稼働率が向上しているため、年度内の許可病床数最大利用を見込んでいる。
5	社会医療法人寿会富永 病院	大阪市浪速区	19床	令和5年度	コロナ禍明け以降、入院患者数がコロナ禍以前の水準に戻らないため。	その他	未定	当該非稼働病床については、 1.他の地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟の増床に伴って減少させるか、 2.院内のスペース確保のため削減するか、 3.地域医療機関との連携や救急車受け入れ台数の増加対策（脳神経外科だけでなく、循環器内科の受け入れも強化）を行い再稼働する かどうかの3案で検討している。
6	医療法人同友会共和病院	大阪市生野区	39床	令和6年度	人員確保が困難になってきているのに加え、病床稼働率からも経営的に厳しいことが大きな理由であります。	病床の一部を削減し、再稼働する。	今年度中	今年度中にまず非稼働病床の一部を廃止し、次年度中に医療従事者の確保が出来なければ、残りの20床についても返還する方向で検討します。削減病床の19床（急性期12床、慢性期9床）を予定しております。

非稼働病床の現況について (大阪市 二次医療圏・病院)

※過去1年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去1年間病床が一度も稼働していない有床診療所（非稼働病床という）

【南部】

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になった時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	医療法人徳洲会 正和病院	大阪市平野区	25床	令和7年度	法人が令和7年7月1日から変更となり、主に旧法人の医師・看護師の退職に伴い、休止がやむを得ない状態であったため。	再稼働する。	未定	当院は築60年ということもあり、新築移転を計画している。現在、土地を選定中。
2	長吉総合病院	大阪市平野区	66床	令和6年度	北3階病棟を休止している理由については、令和3年度からのコロナ禍により、より多くのコロナ患者の受け入れを果たすべくコロナ病棟として令和5年度まで運用していました。コロナ禍が終わり、陰圧器や区画整理など感染対策が整った当該病棟の活用としてはコロナ等感染症にも対応できる急性期病棟として再稼働するために令和6年度から人材確保に努めていますが、当院全体の職員の高齢化により、退職が増加し、新しく職員を採用しても退職した他病棟の人員を満たすために優先的に配置していた関係上、北3階病棟1病棟分の職員確保に繋がっていました。令和7年度においては、経営上厳しいのですが、採用費（紹介手数料等）の予算を拡充して病棟再開に向けて人材を確保しているところです。 東3階を休止している理由は療養病棟から回復リハビリテーション病棟として病床転換するために病棟の改装をすべく準備を進めているところです。	再稼働する。	翌年度中	北3階病棟は、令和8年4月に再稼働するために看護師や介護職員の採用を順次進めています。 令和7年11月現在において、令和8年4月1日までの入職予定（看護師：10名、介護職員：8名）であり、38床を稼働できるための看護師13名以上になるよう引き続き職員の確保を行い、全体的な異動を行い令和8年4月より稼働する予定です。 東3階病棟は、令和8年度中に回復リハビリテーション病棟として再稼働する予定です。病棟の痛んだ箇所の整備及び病床のリフォームの計画を立てているところです。 また、令和7年9月2日付けで療養病床12床を減少済で、現在は許可病床309床となっております。
3	社会医療法人杏樹会 杏林記念病院	大阪市西成区	61床	令和4年度	令和6年度中に90～100床の稼働を目標に、医師2名、看護要員15名人員を確保し、病床の再稼働を図るべく努めておりましたが、残念ながら実現に至っておりません。 要因としては、当院が所在する地域は、未だ新型コロナウイルス感染症の患者様が多く（本日現在も多数名入院していらっしゃいます）入職を敬遠されるケースがあることや、紹介業者の存在です。具体的には、職員を採用する際に、残念ながら紹介業者を利用せざるを得ない状況ですが、対応する担当者の不手際（医療人材採用の経験不足）や手数料の値上げ等で、仮に良い人材であっても採用をお断りするケースがございました。 当院においては、令和7年度においても、特に夏場は、熱中症や近隣の介護事業所等のクラスターの発生により、病床が不足して、救急の受け入れを制限せざるを得ない状況が何度も発生いたしております。 また、南海トラフ地震等の大規模災害に備え、あと、30床程度の病床は確保しておきたいと考えております。早急に、非稼働病床の減少に向けて努力してまいります。	病床の一部を削減し、再稼働する。	翌年度中	先日、大阪府健康医療部 保健医療室保健医療企画課の地域医療構想の取組の推進に向けた調査のご担当者様に対し、当院における地域医療構想の取組の推進に向けた調査を以下の通りご回答させていただきました。 令和7年度若しくは令和8年度において、以下の通り病床を一部病床を削減した上で、非稼働病床を稼働する。 入院料 地域一般入院料 1 許可病床 120床 削減する病床 40床 変更後の病床 80床 また、医療人材の確保について、紹介業者頼りではなく、看護学校への求人の為の訪問（実習の受入を含む）や入職祝い金等の創設、福利厚生の充実等に着手しております。
4	社会医療法人山紀会 山本第三病院	大阪市西成区	36床	平成21年度	現在の休床数は一般病床の36床です。 病院が老朽化の為、新築移転の計画があります。 新築移転時に休床の36床を回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟へ転換することを計画しております。	再稼働する。	未定	新築移転の時期は現在未定です。 移転場所が決まらない状況の為具体的な計画は立てることが出来ません。
5	大阪公立大学医学部附属病院	大阪市阿倍野区	81床	令和4年度	病棟再編の計画はある。但し、昨今の経営状態を鑑みると再編に使用できる予算が確保できないため。	再稼働する。	未定	経営状態の先行きが不透明のため、時期は未定。

非稼働病床の現況について (大阪市 二次医療圏・診療所)

※過去 1 年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去
1 年間病床が一度も稼働していない有床診療所（非稼働病床という）

【北部】

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になつた時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	医療法人小山医院	大阪市北区	2床	平成 19 年度	本院の入院目的は急性期で転院先が決まらないとき当院にて待機、または短期入院で改善する容態の患者がないため稼働していない	その他		該当者がいれば稼働する
2	中之島アイセンターC L I N I C	大阪市北区	6床	令和 6 年度	経営的に現在、人件費が経営を圧迫しているのが現状です。 特に、病棟のスタッフを採用することで、今以上に人件費および経営を圧迫する事が予想されます。 現在、 ^か 数・患者数は増加傾向にあり、かつ、医療イバ ^カ ドの患者も積極的に受け入れており、 ^か 数・患者数は徐々に増えています。 収支が現在の3,500万円/月から4,000万/月になれば、収支の目途も立つ見込みです。 また平行して、病棟、夜間スタッフを募集していますが、まだ、集まつていない状況です。	再稼働する。	翌々年度中	2026年中には海外の患者も増えると想定され、4,000万/月の売上を達成できると想定しています。2027年には、入院患者の受け入れも可能であると考えています。

非稼働病床の現況について (大阪市 二次医療圏・診療所)

※過去1年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去
1年間病床が一度も稼働していない有床診療所(非稼働病床という)

【東部】

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になつた時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	大阪肛門科診療所	大阪市中央区	19床	令和5年度	医師の勤務体制により、稼働が不可能となったため	再稼働する。	未定	令和何年からと具体的な事はまだ決めておりませんが、後継者は決まっておりますので、建替→再編は数年後になる予定です。
2	医療法人清医会 三上クリニック	大阪市城東区	19床	平成25年度	前年と同じく、国内における透析患者数の減少と一般外来患者数も以前より減少しており、病棟の再稼働には多額な費用が必要となり、医師の働き方改革他からも非常勤医師の不足、看護師の不足他から進んでおりません。	その他		本年7月に理事長、院長が交代したのを機に、まずは透析患者と一般外来患者の確保をしてから再稼働の必要経費を捻出したく、病床活用につき薬品メーカー含め薬業会に相談をしているところです。近隣病院からは地域医療連携推進法人への加盟の誘いもあり、未だ、明確な解答が無いまま模索しております。
3	医療法人正啓会 西下胃腸医院	大阪市天王寺区	7床	令和6年度	日帰り手術が大半で緊急入院も少なく、新興感染症も落ち着いているため。	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		新興感染症時の病床として利用を計画している。
4	医療法人 岩本診療所	大阪市東成区	7床	平成1年度	人員不足、確保困難である事、人件費高騰、物価高騰に見合わない診療報酬体系から経営上の判断もあるが、在宅医療のバックベッド確保や、日帰り手術、ポリペクトミー後の状態観察などのため必要性も認識しております。今後の医療情勢や人員確保の目処が立ち次第再稼働予定です。	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		現在人員増員中で、あとは経営上の判断になります
5	医療法人光臨会 奥野クリニック	大阪市生野区	3床	平成3年度	産科患者の受け入れを休止しているため	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		現状維持
6	藤上産婦人科クリニック	大阪市生野区	4床	平成22年度	看護職など有資格者の確保が難しいこと、患者ニーズがないこと、年齢的体力的に不安があること、等。	病棟を削減する又は無床診療所とする。	翌年度中	来年度か今年度中に無床診療所に変更する予定。

非稼働病床の現況について (大阪市 二次医療圏・診療所)

※過去1年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去
1年間病床が一度も稼働していない有床診療所（非稼働病床という）

【南部】

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になつた時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	医療法人中島クリニック	大阪市住之江区	5床	平成1年度	経営上の問題、施設の老朽化、スタッフ不足等。様々。	その他		経営状態を改善してからの施設の設備の更新等必要項目は多々ありますが具体的な時期は現在立てられない状況です。
2	医療法人五常会 浅野クリニック	大阪市西成区	10床	平成29年度	この間経営上、人員を雇用する余裕がない。診療点数の縮減、材料費・設備費・人件費の高騰に収入が追い付いていない。	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		国会で議論の俎上に上がっている医療費制度改定に期待している。 また病床稼働に向け、節電、必要経費の見直しなど自助努力を行っている。
3	猪木産婦人科	大阪市西成区	1床	平成18年度	母体保護法指定のための病床	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		母体保護法指定のための病床であり廃止の予定はない
4	医療法人心明会 レディースクリニックさわだ	大阪市阿倍野区	3床	平成31年度	中絶患者が居なかつたため。	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		患者の要件と医療者の充実を鑑みて時期は検討します。